

J R南武線連続立体交差事業に関する地域勉強会（第5回） 開催要旨

開催日時 平成29年8月2日（水） 14時00分～15時30分

開催場所 幸区役所4階 第2会議室

- 議 事
- 1 平成28年度勉強会内容の確認
（連続立体交差事業の計画について）
 - 2 有識者への意見聴取結果の公表について
 - 3 J R南武線のまちづくりについて
 - 4 J R南武線沿線地域における現況と課題について

《開 会》

1 平成28年度勉強会内容の確認（連続立体交差事業の計画について）

2 有識者への意見聴取結果の公表について

[意見要旨]

- 地域勉強会 ○ 有識者からの意見の中で、人口減少についての意見は特に無かったのか。今後高齢化が進展していく中で駅までのアクセス改善が重要である、早く事業をしなければ効果が低くなってしまふ、若しくは人口減少を迎える中で既に高架の事業ではなく、他の事業にお金を回していくべきなど。
- 地域勉強会 ○ 昨年の勉強会の中で、早急に連続立体交差事業を進めていくべきで、併せて沿線のまちづくりも皆で考えていこうとの結論を得ており、人口減少のため事業は不要と整理すると、どの事業も不要であるとの整理になってしまう。そのため、この勉強会では高架と併せてまちづくりをどのようにしていくか、前向きな議論をしていきたい。
- 事務局 ○ 人口に関する有識者からのご意見はいただけていませんが、連続立体交差事業と併せて、駅利用の促進につなげられる施策も行いたいと考えています。例えば、現在、踏切により定時性が確保できないために、各駅にアクセスするバスが少なくなっておりますが、踏切を無くすことにより各駅にアクセスするバスを増やして利便性を高めることや、連続立体交差事業を契機にして、駅周辺に生活利便施設を整備することも検討していきたいと考えております。
- 地域勉強会 ○ あまりにも事業期間が長すぎる。
- 事務局 ○ 今回の区間は川崎市域だけでも4.5kmと長く、影響する家屋等も多いため、一定程度の長い期間を要してしまふが、なるべく早く完了できるように進めていきたい。
- 地域勉強会 ○ 経済の状況変化に併せていくことは重要だが、地域の課題解決を図るこの事業は前向きに進めて行くべきと考える。
- 地域勉強会 ○ 事業期間を左右する用地買収についても、地域としてもできるだけ協力していきたい。踏切を無くし、住みやすく子育てしやすいまちを目指して、事業を進めて欲しい。
- 地域勉強会 ○ この連続立体交差化の事業は、メリットやデメリットで必要性を議論するのではなく、将来的に沿線に住む方々の生活に役にたつのか否かで議論すべきだと考える。将来の若い人たちのため、どのようなまちにしていきたいのかを考えて、損してでもやるべき事業であると思います。
- 地域勉強会 ○ 中原区の北側は既に高架化済で、小杉駅から地表面を走っているが、中原区に住んでいて両地区を見比べていると、まち全体の一体感が大きく異なり、高架化の事業効果は事業化前には想像できないほど大きいものであった。この事業は、大変な事業ではあるが、前向きに進めていかなければならないと考える。
- 地域勉強会 ○ この事業は地域の課題で原因である踏切を無くすだけではなく、周辺の都市計画道路を整備することにより地域全体の交通渋滞の解消も見込まれるので、是非事業を

進めて欲しい。

- 地域勉強会 ○ 昨年の現場視察で高架下の活用状況を見てきたが、高架下を市が安い賃料で貸すなどしないと、個人事業主が出店できる機会がなくなってしまい、大手のチェーンの店舗ばかりでどこの駅でも同じで、まちとしての面白みに欠けてしまう。
- 地域勉強会 ○ 高架下を行政で無償利用できる 15%の割合を、地域貢献の一環として、さらに高められないか鉄道事業者とも協議して欲しい。地域包括ケアなどにも活用できる空間となるのではないか。
- 地域勉強会 ○ 北林先生の見解の中で、「マンションに対する影響評価は高架化後の高さで行う」とあるのは、どのようなことを意味しているのか。
- 事務局 ○ 通常、騒音の影響評価は地表面から一定の高さで予測するが、今回は音源の位置が高くなることを考慮して、適切な高さで予測する必要があるとの意見をいただきました。
- 地域勉強会 ○ マンションに近接する戸建住宅に対して、マンションからの反響音の影響は特に意見がなかったのか。
- 事務局 ○ マンションからの反響音についてご意見はいただいているが、それぞれの場所に応じて、適切に対応していきたい。
- 地域勉強会 ○ 同じく北林先生の見解で、「線路の両側を歩行者が行き来することができる道路は、一定の間隔が必要である」とあるが、鉄道事業者が 85%確保すると、現在の踏切部分以外で横断できる箇所が確保できないのではないかと。そうするとせっかく高架にするのに事業効果が少なくなってしまうのではないかと。
- 事務局 ○ 今後の鉄道事業者との協議事項になるが、歩道として整備できなくても店舗の横を抜けられるようにしてもらおうなどの対応も考えられるので、適切な間隔で通り抜けられるようにしていきたい。
- 地域勉強会 ○ 高架後に鉄道事業者が 85%、川崎市が 15%の利用割合になる土地の考え方は、現在道路で使っている土地を除いた土地でいいのか。
- 事務局 ○ 現況で川崎市が所有している踏切などの道路部分を除いて、15%の計算を行うことになっています。他地区の事例では、新たに整備する歩道部分を 15%の対象に含めなかったものもあり、今後の鉄道事業者との協議によります。
- 地域勉強会 ○ 今の割合の話は、線路の延長に対して 15%は、川崎市の所有になるということなのか。
- 事務局 ○ 現況で川崎市が所有している土地は除いて、高架化され新たに活用できる土地の面積に対して、15%は川崎市が利用できることとなります。

3 南武線沿線のまちづくりについて

[意見要旨]

- 地域勉強会 ○ 南武線沿線まちづくり方針の策定のスケジュールはいつ頃を見込んでいるのか。
- 事務局 ○ パブリックコメント等の手続きを経て、平成 30 年 3 月の策定を予定しています。

4 南武線沿線の現況と課題について

[意見要旨]

- 地域勉強会 ○ 現在未整備の矢向鹿島田線を、南武線の高架化工事の前に拡幅することは考えていないのか。
- 事務局 ○ 矢向鹿島田線の用地を活用して仮線路を設けるので、南武線の高架化工事完了後に、道路整備を考えております。
- 地域勉強会 ○ 鹿島田駅周辺は、商店街だけではなくまち全体が分断されている。また、鹿島田には避難場所がなく、南武線の1駅分の距離を歩かなければ、東小倉小学校や平間小学校へ行けないことが大きな問題である。また選挙の投票所は近くに小学校がないため、公会堂で行っているが狭くて大変である。
- 地域勉強会 ○ 選挙の投票所の問題は長年の課題であり、以前は鹿島田の再開発で確保できなかったの話もあったが、確保できないまま今に至っており、今回の整備に併せてなんとか整備して欲しい。
- 事務局 ○ 投票所については今後各駅周辺のまちづくりを検討して行くなかで、どのような機能を誘導して行くのかを検討する際の参考とさせていただきます。東西の連携や、避難スペースの確保に関する課題などは、連立事業を契機として、地域の方々が使いやすい駅前を地域の皆様で検討して頂き、市がご協力できる部分については前向きに対応をしていきたいと考えております。
- 地域勉強会 ○ 横須賀線を横断する動線は、新川崎駅付近にしかないために不便である。地域の一体性を高めるためにも横断できる箇所を増やす必要があるため検討して欲しい。
- 事務局 ○ 横須賀線の横断箇所を増やす検討を行うのであれば、別途横須賀線周辺地域のまちづくりについての現況などを検証して判断する必要がありますので、頂いたご意見については参考とさせていただきます。
- 地域勉強会 ○ 向河原駅東側の商店街の道路が狭く、小学生の通学時間帯には一方通行の規制をしているが、個別の対策ではなく、駅周辺を一体的に再整備する計画を作って課題解決を図って欲しい。
- 事務局 ○ PTAなどからもご指摘いただいておりますが、商店街として建物が立ち並んでいるため、この道路を拡幅することは難しいと考えております。長期的な取組として、この連続立体交差事業を契機に、地域で再開発事業などを行うことにより、課題解決が図られる可能性もありますので、皆様と検討していきたいと考えております。
- 地域勉強会 ○ ガス橋通りの平間踏切から国道409号の間が狭く、危険なので、道路だけでも早く整備して欲しい。
- 事務局 ○ 南武線の連続立体交差事業と同時に道路整備を考えているが、早期に対応できる部分については、前倒しで行っていくことも考えたい。

※その他意見等

[意見要旨]

- 地域勉強会 ○ 都市計画道路の整備時期はいつ頃を見込んでいるのか。
- 事務局 ○ 連続立体交差事業と併せて都市計画道路の整備を考えており、踏切が除却できるタイミングでは都市計画道路も整備できるよう取り組んでいきたい。
- 地域勉強会 ○ 高架下を町内会の会館として利用したいと考えているが、JRは東急などの私鉄と比べて借地料が高額だと聞いており、せつかく生まれる空間なので、市民が利用しやすいよう借地料を安くしたり、手続きを簡便化するなど、事前にJRと協議できない。
- 事務局 ○ 今の段階では、高架下の土地利用について具体的な話はできていませんが、事業が一定程度進んだ段階で、このようなご意見があったことを伝えたいと考えています。
- 地域勉強会 ○ この事業で移転が必要となる地権者への対応はどうなっているのか。説明会はいつ頃開催する予定なのか。
- 事務局 ○ この事業でこれまで、移転が必要となる地権者の方々に個別に対応していることはございません。来年度から用地境界を確定する測量作業を予定しており、その際には、なるべく少ない人数での説明会を開催して、個別に対応していきたいと考えております。
- また、これとは別に、8/29 30に中原区区役所で、9/1 2に幸市民館で、連続立体交差化の検討状況のパネルや鉄道模型が走るジオラマなどを用いて、オープンハウス型の説明会の開催を予定しておりますので、この中でご相談いただければと思います。この説明会のチラシなどは町会を通じて回覧等させていただきますので、よろしく申し上げます。
- 地域勉強会 ○ 向河原駅から武蔵小杉駅の間で、どこからが高架になる予定なのか。
- 事務局 ○ 武蔵小杉駅の東側の新幹線と交差する部分から線路を上げ始めて、向河原駅前踏切で下を車が通れる高さまで上げてくる予定になっております。
- 地域勉強会 ○ 新幹線と交差する部分で、高架下に高さがあまり取れていない空間があるが、この部分は活用できないのか。
- 事務局 ○ 計画段階ではあるが、この新幹線の高架下の空間を活用して、歩行者と自転車が通って、武蔵小杉駅の南口にアクセスできるような整備を予定しております。

《閉 会》